

科研費基盤(S)研究:

パレオゲノミクスによる

マヤ文明コパン王朝のダイナミクス解明

進捗状況検討会

公立小松大学次世代考古学研究センター

中村 誠一



石碑64の発見 (2024年3月)と その意義

コパンでは、35年ぶりに発見された石碑
(断片)

コパン王朝史における空白の時期である
5世紀の長期暦をもつ。

9.1.10.0.(0) : 西暦465年

残存碑文は、コパン王朝の初期の王(とくに
4代目王)と、グアテマラ・ペテン低地の古典
期前期の一大都市リオ・アスールとの関係
を示唆

詳細は、科研費(S)のウェブページで報告済

リオ・アスールとは？

ティカルから約60キロ北東のグアテマラ、ベリーズ、メキシコ国境沿いに位置。

1962年に発見。その後、大規模な盗掘を受ける。1983年から5シーズンにわたり、テキサス大学のRichard E.W. Adamsをディレクターとする調査隊が未盗掘王墓を含む数多くの埋葬を発見。

National Geographic Vol.169, No.4 (1986)で特集



コパン王家の古人骨サンプルに加え、リオ・アスール王家の古人骨サンプルを取得できないか。

- 2024年8月、グアテマラ人類学歴史学研究所 (IDAEH) に調査許可を申請
- 2024年9月、9月9日～20日、午前9時から12時、午後1時から3時45分の間に指定倉庫を調査するようという指示を受けた。
- 2024年9月9日～12日に調査し、9月13日にIDAEHに報告。

結果

リオ・アスール考古学プロジェクトの1987年シーズンのもものだけが確認できた。すべての埋葬をチェックし、側頭骨錐体部にあたる部位を7個体で確認、8サンプル(1個体は左右両方残存)を採取・分離した。

リオ・アスール王墓人骨はどこに？

- 1983～1986年のプロジェクト最初の4シーズンの古人骨の所在は、いまだ不明。アメリカへ持って行かれたという噂もあり。
- 相変わらず、保管状態が最悪。学術情報も不足。
- Tomb報告書・記録等もこれから調査する段階。
- 国立考古学民族学博物館倉庫にかつて展示してあった「リオ・アスール王墓」といわれる人骨(Tomb19か?)を確認。

今後の課題として、その真偽の確認と固められた状態の人骨から、サンプル採取が可能かどうかを検討する必要がある。